

5.8 景観

5.8.1 現況調査

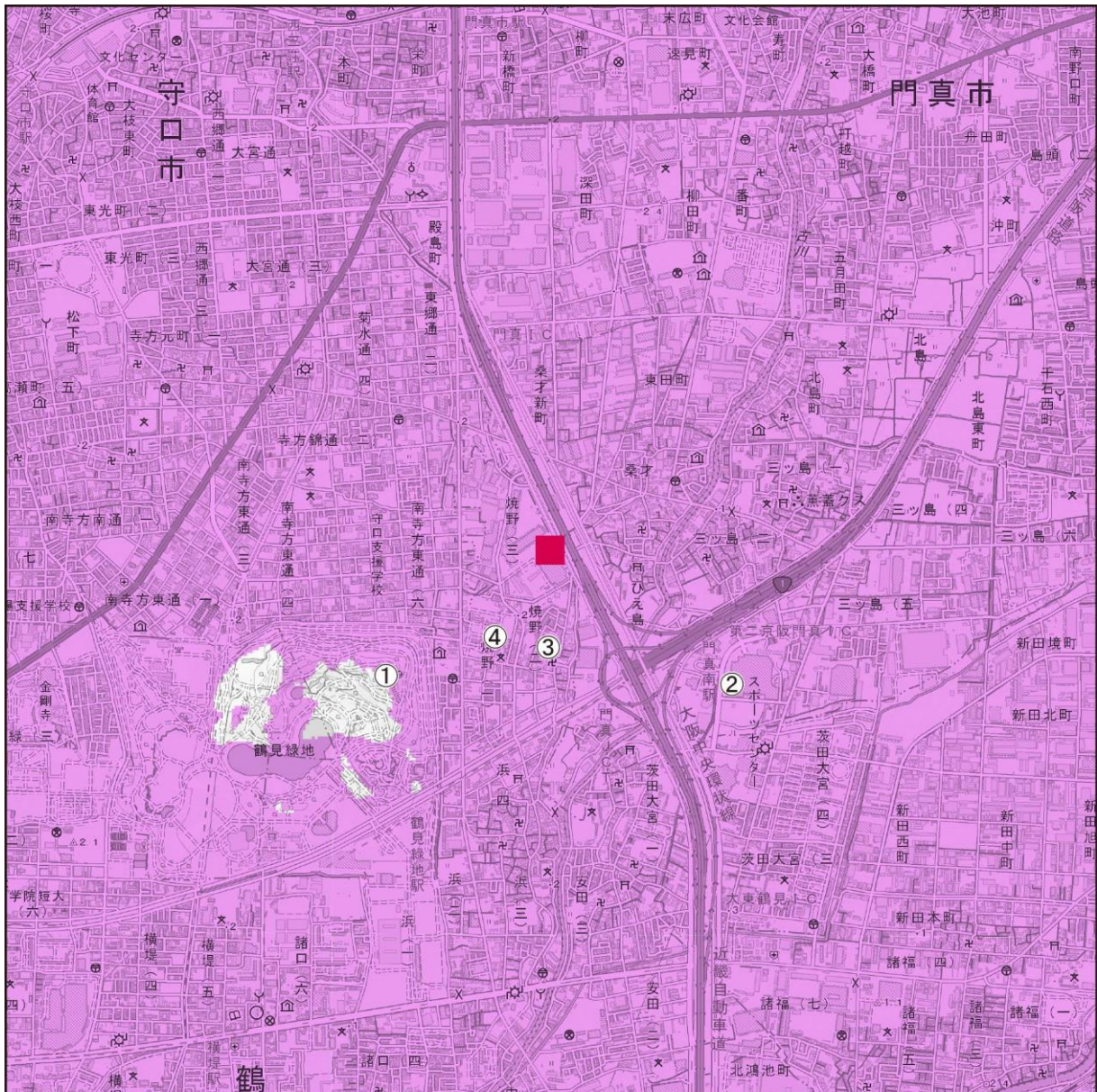
現地調査を行い、事業計画地方向が望める地点の中から、代表的な眺望地点として、「鶴見緑地公園 風車の丘」、「大阪府立門真スポーツセンター」、「焼野公園周辺」及び「焼野小学校周辺」を選定した。

代表的な眺望地点と事業計画地との位置関係は、図 5.8.1-1 に示すとおりである。図中に示す可視領域は煙突（高さ 100m）が視認できる領域であり、ほとんどの場所から煙突が視認できる。なお、可視領域は眺望する地点と眺望される煙突の標高差からのみ算出したものであり、実際は地物（建物および樹木）の影響で煙突が視認できない場合もある。

代表的な眺望地点から事業計画地までの距離と特徴は表 5.8.1-1 に示すとおりである。

表 5.8.1-1 代表的な眺望地点から事業計画地までの距離と特徴

項目 地点 (用途地域)	事業計画地までの距離	景観の特徴
鶴見緑地公園 風車の丘 (第一種住居地域)	860m (標高 20m)	事業計画地の南西に位置し、鶴見緑地公園内にある。四季折々の花々が周辺を彩り、美しい風景を楽しむことができる。 事業計画地方向を望むと、樹木の隙間から煙突を視認できる。
大阪府立 門真スポーツセンター (準工業地域・ 近隣商業地域)	790m (標高 3m)	事業計画地の南東に位置し、国際的・全国規模の競技大会をはじめ学校等のスポーツ行事にも利用できる多目的アリーナである。 事業計画地方向を望むと、低層の倉庫・住宅、高架の近畿自動車道の隙間から現工場の建屋上部、煙突が視認できる。
焼野公園 周辺 (第一種住居地域)	310m (標高 1m)	事業計画地の南に位置し、住宅街に囲まれた小さな公園である。 事業計画地方向を望むと、田んぼや住宅、樹木とともに現工場の建屋上部、煙突が視認できる。
焼野小学校 周辺 (第一種住居地域)	320m (標高 2m)	事業計画地の南西に位置し、住宅地に囲まれた小学校である。 事業計画地方向を望むと、住宅や樹木、焼野小学校の柵や防球ネット越しに現工場の建屋全体、煙突が視認できる。



この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000 及び基盤地図情報数値標高モデル 10m メッシュを使用したものである。

凡例

- : 煙突位置
- : 可視領域
- ① : 鶴見緑地公園 風車の丘
- ② : 大阪府立門真スポーツセンター
- ③ : 焼野公園周辺
- ④ : 焼野小学校周辺



図 5.8.1-1 代表的な眺望地点と事業計画地との位置関係

5.8.2 予測

本事業の実施に伴う本計画施設の存在による地域景観について、その変化の程度を予測した。

(1) 予測内容

景観の予測内容は表 5.8.2-1 に示すとおりである。

表 5.8.2-1 景観の予測内容

予測事項	新工場の存在による地域景観の変化及び代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度
予測対象時期	工場全体の稼働予定時期（令和 11 年度）
予測対象地域	事業計画地周辺
予測方法	代表的な眺望地点からのフォトモンタージュを作成

(2) 予測結果

各眺望地点からのフォトモンタージュは図 5.8.2-1 に示すとおりである。

新工場は老朽化した現工場建屋を撤去してほぼ同規模の建屋を建設するものであり、現工場同様に、その設備機器は直接外部から視認されることはない。また、現工場の高さ 100m の煙突は新工場でも補修して再利用する計画であることから、周辺の地域景観に特に違和感を与えないものと予測される。

「鶴見緑地公園 風車の丘」からの眺望では、現況同様、将来も煙突のみ視認できるが、現工場の煙突は撤去されず外筒は補修して再利用する計画であり、煙突の外観は現況から変化しないことから、本建替事業に伴う眺望の変化はないものと予測される（図 5.8.2-1(1)）。

「大阪府立門真スポーツセンター」からの眺望では、現況同様、将来も建屋の上部及び煙突が視認できるが、高架道路（近畿自動車道 門真 JCT）の背景にあり、構造物による圧迫感を与えることはない。現工場の建屋を撤去してほぼ同規模の新工場の建屋を建設するものであり、また、現工場の煙突も再利用する計画であることから、本建替事業に伴う眺望への影響は小さいものと予測される（図 5.8.2-1(2)）。

「焼野公園周辺」からの眺望では、現況同様、将来も建屋の上部及び煙突が視認できるが、建屋の上部は周りの住宅に紛れ、構造物による圧迫感を与えることはない。現工場の建屋を撤去してほぼ同規模の新工場の建屋を建設するものであり、また、現工場の煙突も再利用する計画であることから、本建替事業に伴う眺望への影響は小さいものと予測される（図 5.8.2-1(3)）。

「焼野小学校周辺」からの眺望では、現況同様、将来も建屋全体がよく視認できるが、現工場の建屋を撤去してほぼ同規模の新工場の建屋を建設するものであり、現工場同様に大きな壁面の分節化、色彩のアースカラー配色等に配慮することから、また、現工場の煙突も再利用する計画であることから、本建替事業に伴う眺望への影響は小さいものと予測される（図 5.8.2-1(4)）。



<現況>



<将来>

図 5.8.2-1(1) カラーフォトモンタージュ(鶴見緑地公園 風車の丘)



<現況>



<将来>

図 5.8.2-1(2) カラーフォトモンタージュ(大阪府立門真スポーツセンター)



<現況>



<将来>

図 5. 8. 2-1 (3) カラーフォトモンタージュ (焼野公園 周辺)



<現況>



<将来>

図 5.8.2-1(4) カラーフォトモンタージュ(焼野小学校 周辺)

5.8.3 評価

(1) 評価方法

予測結果について、環境保全目標に照らし評価を行った。

(2) 評価結果

事業計画地周辺は、国土利用計画法に基づく大阪府土地利用基本計画において、準工業地域、第1種住居地域及び近隣商業地域に指定されており、産業・居住都市としての要素を併せ持つ地域である。将来的に、大阪モノレール延伸の都市計画に伴う門真南駅の拡幅、「大阪都市再生環状道路」における環状道路体系の整備等が予定されており、今後も地域景観の変化が見込まれる地域である。

本計画において、今後の地域景観における変化に考慮したうえで、工場施設の外観・意匠については周辺環境との調和を損なわないよう配慮し、景観的な圧迫感の増大を可能な限り抑制されるよう検討している。

新工場は周辺の地域景観に特に違和感を与えないものと予測され、代表的な眺望地点からの眺望についても際立った変化はなく、その展望を妨げることはないものと予測される。

以上のことから、環境保全目標を満足するものと考ええる。